
幸せな時間

深水晶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幸せな時間

【Nコード】

N0740C

【作者名】

深水晶

【あらすじ】

珈琲メーカーで珈琲が出来上がるまでの幸せな時間。私はご主人様が大好きです。

コポコポコポ。静かな部屋に響く、珈琲メーカーの湯が沸く音。幸せな音だ。私は湯気を立てるそれを、じっと見つめている。

「お前は変なものが好きだね、アイ」

ご主人様は、私の頭や背中を撫でながら言う。

「何が楽しいの？」

だって幸せなの。幸せな音なの。

だってご主人様はいつもこの音がする時、私を膝の上に抱いて撫でてくれるから。

私は喉を鳴らして、ご主人様に頬をすりつける。

もっと私を愛して。私を見て。

何処にも行かずに、そばにいて。

私だけを愛して、可愛がって。

「お前は本当に可愛いよ。愛しているよ、私の子猫」

ご主人様は、愛しげな顔と声で言ってくれる。

私は鼻をすりつけ、小さく鳴いた。

「にゃあああん」

優しくして幸せな時間。

ねえ、ご主人様。そばにいて。私を抱いて可愛がって。

「お前がそばにいる時が一番幸せだよ」

そう思うなら、ずっといて。私のそばにずっといて。

私を一生離さないで。

珈琲が出来上がるまでの時間、毎朝ご主人様は私を抱いて、撫でてくれる。

なのに珈琲が出来上がると、それをパンをかじりながら飲んだ後は、慌ただしく出掛けてしまう。

ご主人様は嘘つきでつれない人。

週に何回かしか私のそばにいてくれない。

だけど良いの。だけど幸せなの。

毎朝、どんなに忙しくても欠かさない、この幸せな時間があるから。

どうか私を愛して、ご主人様。

私はご主人様が大好きです。

本当は出掛ける先にも連れて行って欲しいの。

だけどご主人様を困らせたくないから、我慢してるの。

いつまでも私を、私だけを愛していてね、ご主人様。

じゃないと死んでから化けて出ちゃうよ？

The End .

(後書き)

子猫とご主人様のお話。

読み方によっては、可愛らしい話にも恐い話にもなるはず。

あえてコメントはしません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0740c/>

幸せな時間

2011年8月6日23時57分発行